

「自分次第の農業でチャレンジしていくために」



塩村 裕貴 (41歳)
(久万高原町)

新規参入

1 就農の動機・理由

元々農業とは関係のない会社で働いていたが、自分で何かやりたいという思いがあり、生活に不可欠な農業で自営したいと考えていた。

家族や生活も考えてすぐに就農とは思っていなかったが、将来を考え大阪の就農フェアに行ったとき、久万高原町の研修制度を知った。その後一度大阪の種苗会社での勤務を経て、研修後久万高原町で就農した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和3年)	現在の経営 (令和5年)	将来の経営 (令和8年)
労働力	男1人(本人) 女1人(妻)	男1人(本人) 女1人(妻)	男1人(本人) 女1人(妻)
経営耕地	水田 19.5a	水田 19.5a	水田 19.5a
経営内容	夏秋トマト 19.5a (雨除け施設)	夏秋トマト 19.5a (雨除け施設)	夏秋トマト 19.5a (雨除け施設)

○農業用施設

ビニールハウス 7棟
農業用倉庫 2棟

○主要農業機械

軽トラック 1台

養液土耕システム 1式
動力噴霧機 1台
刈払機 1台
乗用型トラクター 1台
管理機 1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 大阪府大阪市

職歴 種苗会社勤務

就農研修歴

久万農業公園

(R元. 4. 1~R3. 3. 31)

就農年月 令和3年4月

(2) 就農時の思い

家族の生活もあるので、すべて自分次第で「失敗できない」という気持ちがあった。ただ就農時の初期投資にかかる経費などは町の補助もあり、想像していたよりも負担が軽かった。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

研修でハウスを任せられ、そこで一通りトマトの栽培を経験した。研修中は久万農業公園やJA松山市、指導班が定期的な巡回や勉強会を開催してくれた。栽培に関しては自分でも調べたが、実際に就農した先輩方の話を聞くのが一番なので、研修卒業生に相談することが多かった。

(2) 資金の準備

居抜きで入ったため、ビニールハウスを建設する必要はなかったが、ハウス7棟のうち2棟の建て替えや全棟の補強資材、その他トラクター等を、久万農業公園のリース事業を活用して導入した。

(3) 農地・住宅の確保

町外からの新規参入で農地や住宅は一から探した。農地がなかなか決まらず苦労もあったが、久万農業公園に助けをもらいながら今の農地と住宅を確保することができた。

(4) その他苦労したこと

就農1年目はトマトの病気が多発した上、単価も安かったので不安が大きかった。研修中はほとんど病気が出ず対処を経験してこなかったため、研修通りやれば良いだけではないと痛感した。ほ場が変われば環境も変わり、その土地に合った栽培方法を見つけなければいけなかったことが大変だった。

5 農業経営の特徴

JA松山市のトマト部会に入り、エコえひめ認証を受けて環境にやさしい栽培に取り組んでいる。自分としては極力その作物にストレスがないような栽培を心掛けており、特にハウスの開閉などはタイミングと回数に注意して、生育に合わせた管理を徹底している。

6 これからの夢

子どもがまだ小さいので、落ち着くまではしっかり現状維持をして、色々なデータを取りながら見極めていき、土台を固めたい。落ち着いてきたら状況次第では、規模拡大や雇用も視野に入れたい。

7 成功したキーポイント

まだ就農3年目なので成功したと感じることはないが、町をはじめとする関係機関のサポートが手厚いので続けられている。また、先輩も多く、地域の支援のおかげで続けやすい環境であると実感している。今後も結果を出せるよう、自分なりのやり方を模索しながら続けていきたい。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業はその時の環境に左右される仕事であり、栽培期間中は作物優先で動かなければいけないので、そのあたりの覚悟は必要だと思います。でもやっぱり自分がやった分だけ成果に現れるので、たくさんチャレンジして、自分だけの農業を見つける楽しさを実感して欲しいです。

○ 指導機関からのひとこと

自分の経験を最大限に活かし、トマトの栽培と真剣に向き合っており、研修卒業生のお手本のような農家として日々邁進されています。これからも担い手として地域をリードしてくれることを期待しています！

執筆機関

中予地方局地域農業育成室
久万高原農業指導班
電話番号 0892-21-0314



育苗作業